

# 1 1 学校研究について

## 1. 研究主題

自ら学び、表現しようとする子の育成  
～算数科における「かく活動」を中心に～

## 2. 主題設定の理由

本校では、昨年度より、「自ら学び、表現しようとする子の育成」を研究主題に掲げ、「わかる・できる」授業を積み重ねてきた。本校児童の「数学的に思考・判断したことを、文章や式・図・表などで表現する力が十分でない」という実態を踏まえ、「かく力」をつけることに力を入れてきた。特に定着が弱い「割合」の単元を核とし、各学年において「割合」の学習につながる単元において「かいて表現する」ことを系統的に指導し研究を進めてきた。また、その単元に重点を置いて研究授業を行い、評価問題等で成果を検証した。

その結果、図や数直線を用いて数量関係を捉えることができる児童が増えてきた。しかし、題意を十分に読み取り「基準量」や「比較量」を的確に捉える力が弱い児童もいる。また、立式するためや説明するための手段として、自ら数直線図を用いてその良さを生かそうとする児童はまだ少ない。そのため、今年度も継続して「割合」の学習につながる単元を中心に「かく力」を高める授業づくりを行っていく。その際に、○などを用いた図やテープ図・数直線図などを系統的に指導し繰り返し活用させることで、図をかくことの良さに気付かせ、図を自らかこうとする児童や図に整理すれば立式できると実感できるような児童を育てたい。そして、図を用いて自分の考えを説明したり、お互いの考えを伝え合ったりする中で、児童の筋道を立てて考え、表現する力を高めていきたいと考える。また、自分のかいた図表現や解決方法を振り返ってそれを修正したり、言葉で着想や説明を書き加えたりしながら、自ら学習を調整し粘り強い取組を行おうとする態度を育成することにもつなげていく。さらには、お互いの意見や考えを共有し思考を深めるツールとして ICT の効果的な活用の仕方を探っていきたい。

このように算数科における「かく活動」を充実させることを通して、自ら学び、表現する子を育成していくことを目指し、研究主題および副題を設定した。

## 3. めざす児童の姿

- ①主体的に学習に取り組む子
- ②数学的に思考判断し、表現しようとする子
- ③基礎・基本を身につけている子

## 4. 研究の取り組み

### (1) 授業研究

- ①問い？を持たせる課題の提示

- ・学習意欲を高める導入
  - ・ゴールの具体的な姿を想定した課題設定
  - ・課題解決のための見通しの持たせ方の工夫
- ②考えを広げ深める，対話的な学び合いの充実
- ・自分の考えの根拠や筋道を表現する場の設定
  - ・多面的な思考を促す学習形態や学習方法の工夫（ペア・グループ，ICTの活用）
  - ・児童の思考を広げ深める問い返しや価値付け
- ③「わかった」「できた」「次はこれをやってみたい」と実感できる活動の充実
- ・ねらいと実態に合った適用問題の設定
  - ・自己の変容や達成感の自覚化，次の課題への意欲化につながる振り返り

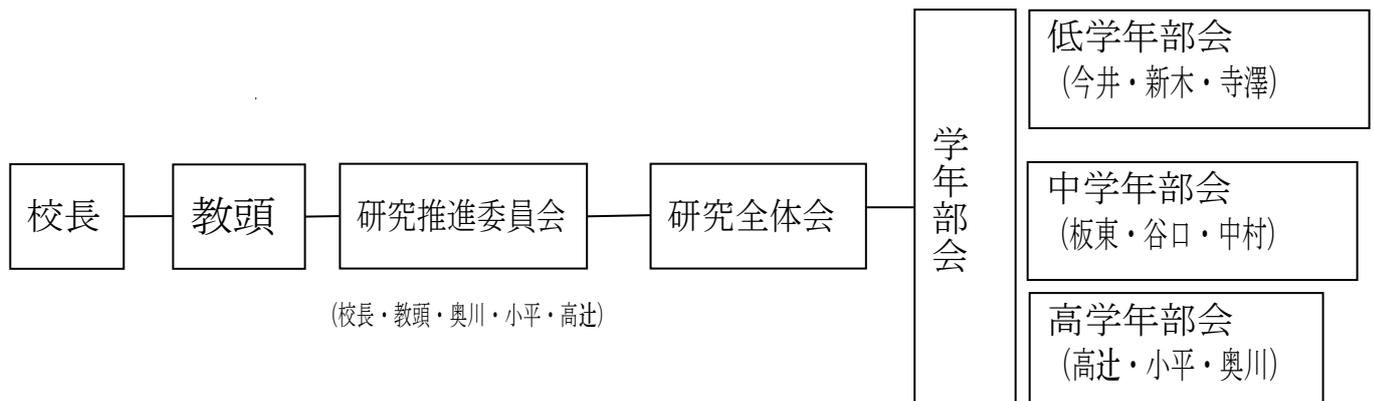
## （2）組織的・継続的な研究推進の工夫

### ①「めざす授業」のイメージ化

- ・目標で貫かれた授業づくりをするための授業構想シート
- ・指導者と児童でめざす授業を共有するための授業参観や振り返りシート
- ・校内研修，校外研修の充実

### ②学力づくり部だよりの発行

## 5. 研究組織



低・中・高学年部会で授業研究（指導案検討）⇒全体会・模擬授業 ⇒ 研究授業 ⇒整理会

## 6. 研究の検証

### （1）指導者

授業振り返りシート，教職員アンケートをもとに指導を振り返り，授業改善に活かす。

### （2）児童

スマートスクールネットの評価問題や学力調査問題で理解度を測り，次の単元や次年度の取組につなげる。

7. 研究構想図

《学校教育目標》  
『豊かに学び 共に成長する子』の育成

- ～めざす児童像～
- ① 主体的に学習に取り組む子
  - ② 数学的に思考判断し、表現しようとする子
  - ③ 基礎・基本を身につけている子

研究主題 自ら学び、表現しようとする子の育成  
～算数科における「かく活動」を中心に～

- ～組織的・継続的な研究推進の工夫～
- ① 「めざす授業」のイメージ化
    - ・目標で貫かれた授業づくりをするための授業構想シート
    - ・指導者と児童でめざす授業を共有するための授業参観や振り返りシート
    - ・校内研修、校外研修の充実
  - ② 学力づくり部だよりの発行

授業研究の3本柱

課題の工夫	学び合いの充実	振り返りの充実
問い？を持たせる 課題の提示 【学び12+②】	考えを広げ深める 対話的な学び合いの充実 【学び12+①③④】	「わかった」「できた」「次はこれをやってみよう」と 実感できる活動の充実
☆学習意欲を高める導入 ☆ゴールの具体的な姿を想定した課題設定 ☆見通しの持たせ方の工夫	☆考えの根拠や筋道を表現する場の設定 ☆多面的な思考を促す学習形態や学習方法の工夫 ☆児童の思考を広げ深める問い返しや価値付け	☆ねらいと実態に合った適用問題の設定 ☆自己の変容や達成感の自覚化、次の課題への意欲化につながる振り返り

生徒指導の3機能が生きている学級づくり

- ～自己存在感のある学級～  
自己肯定感の育成
- ～共感的理解のある学級～  
仲間を尊重する力の育成
- ～自己決定のできる学級～  
自律・自立の力の育成